

【知事定例記者会見】 4月21日（金）

● SAGA サンライズパークがグランドオープンします

新時代のエンタメアリーナ SAGA アリーナ

- ・ 4階部分の最大勾配 35 度、中央を大きく取り囲むすり鉢状の観客席。どの席からも見やすく、臨場感あふれる体験ができる。
- ・ 全国で唯一、中央と壁面に大型ビジョン、場内を一周するリボンサイネージを標準装備。演者を引き立てる黒基調の会場。光のイルミネーションや音響のすばらしさを感じてほしい。
- ・ 升席、ペアシートを含む国内最多の席のバリエーション。3階部分はすべてプレミアムラウンジ。席によって様々な楽しみ方ができる。
- ・ 女性トイレ数は、最大 164。
- ・ 全席にドリンクホルダー完備。

佐賀のスポーツシーンを世界基準へ

知事就任前、JTB やラグビー組織委員会で様々な施設を見て、日本と世界のスポーツの在り方にギャップを感じていた。日本のスポーツは、勝利を重視。本来スポーツは、行うだけでなく、観る、支える、育てるなど、多面的に人生を豊かにするもの。その部分で、世界との遅れを感じていた。

外国では、試合前にパーティーや商談などを楽しみ、5分ほど前に試合会場に入る。日本では応援合戦や試合そのものが注目されている。

国スポ後の使い方を考えることが大切だとの意見をよく聞いた。この気づきを形にした。

3月12日(日)スペイン「サン・マメススタジアム」を視察

スペインのサッカークラブ、アスレティック・ビルバオの本拠地。1部リーグから落ちたことがないと、チームを誇りに思う気持ちが強い。

試合前には、飲食ゾーンでそれぞれが楽しんでいた。SAGA アリーナをスポーツホスピタリティのリーディングケースとして世界基準の楽しさを佐賀から始めたい。

SAGA アリーナには飲食ができるプレミアムフロア！

3階部分はプレミアムフロア。VIP 用ではなく、親族などの集まりで使える。プレミアムラウンジ、スイートラウンジがあり、ケータリングもできる。

B1リーグは、2026 シーズンからスポーツホスピタリティが標準仕様になるとの話もある。皆さんとともに成熟したプレミアムフロアをつくりたい。

その他プレミアムフロアにはこんな部屋も

各部屋で佐賀出身の芸術家たちの作品を展示している。

- ・「佐賀」は、写真家 水田秀樹さんの写真。
- ・「飛翔」は、灯磁器照明作家 飛松弘隆さんの照明。
- ・「躍動」は、書家 江島史織さんの書。台湾のタイガーエアの社長が喜んでた。
- ・「歓喜」は、イラストレーター 326（ナカムラミツル）さんのデザイン。全日空の片野坂会長も気に入ったようだ。

イベント目白押し

佐賀県のような文化芸術の息吹をアリーナに吹き込むため、佐賀県文化芸術祭を開催する。ほかにも、氷を張ったイベント、アイススケートの公演。B'zのコンサートは、14都市全国ツアーの初回として注目を集めている。学術会議や商談会、ユーミンのコンサート、久光のフェス、近日中に発表になるものもある。

5月3～5日にトライアルフェスを開催。試運転としての各機能のチェックを、まず、県民の皆さんとともに試すイベント。

4月18日（火）THE VICTORY WALK 栄光橋が開通しました

皆さんが、ふだん使いできる施設にしたかった。文化会館との間に栄光橋を架け、ランニングコースは「にじゅうまるコース」「いちごさんコース」「サガンスギコース」の3種類をつくり、散歩やジョギングができるエリアにしたい。

5月1日（月）パークテラスがオープンします

- ・ SAGA ARENA SHOP（アリーナショップ）、SAGAアリーナにまつわるグッズを販売。
- ・ La Pause（ラポーズ）、佐賀県産の食材を使った食事を提供。
- ・ SCOLCAFE&D（スコルカフェ）・SCOL SHOP（スコルショップ）、多久の笹川工業のお店。
- ・ DANCE STUDIO STATUS（ダンススタジオ ステータス）SUNRISE PARK 校

佐賀バルナーズいよいよB2プレーオフ開幕

4月22・23日（土・日）は、SAGAプラザで最終戦。現在マジック1。2試合中1試合に佐賀が勝つか、長崎が負ければ自治区1位。長崎に逆転されると自治区2位。

準々決勝の日程は、5月6～8日。そこで勝つと、準決勝のB1昇格をかけた試合が、SAGAアリーナのオープン日と重なる。B1昇格をかけた試合で、初めてSAGAアリーナを使うようではホームの意味がない。急遽、オープン前の準々決勝でもSAGAアリーナ使用を決定。プレーオフ初戦から応援で盛り上げ、B1昇格を果たしたい。

サンライズパークを訪れる人にそれぞれの感動を持っていただくよう尽力する。

- さがの林業再生プロジェクトに取り組んでいます

佐賀の森林は人工林の割合が全国一！

戦後、日本が復興する中で、マイホームブームが起こり、住宅用の木が不足した。政府は、植林で人工林を増やし、需要に対応しようとした。その結果、佐賀県は日本一人工林比率が高い県になった。

ところが、外国から安い外材が入ってくるようになり、木材価格が低迷。伐採意欲の減退、担い手が減少し、日本の人工林は切り出せない状況が続いた。

近年のウッドショックで世界的に木材価格が高騰・品薄

海外では、コロナの影響もあり、都市部のマンションより地方都市に住みたい人が増加。そのため、木材需要が世界的に高まり、外材価格が上昇し、日本に入らなくなった。このピンチをチャンスに変えるため、佐賀の林業再生プロジェクトを考えた。

- ・第1弾 林業機械の導入を支援（令和3年度～）

国の補助対象とならない機械の導入を支援し、木材搬出をスムーズにした。

- ・第2弾 小規模で分散した森林の集約化を支援（令和3年度～）

山の所有者は、飛び地で所有していることが多く、全体の管理が困難だった。各所有者が経営を森林組合に任せることで、作業道を整備し木材の搬出がスムーズになった。集約化で、所有者にもメリットが出るようにした。

- ・第3弾 さが林業アカデミーの開講（令和4年度～）

第1期生の6人は、県内の森林組合や企業に就職、自ら会社を設立するなど林業に携わっている。今年も第2期生を育てる。

林業再生の切り札 佐賀が世界に誇るサガンスギ

56年かけて開発したサガンスギは、成長速度が通常杉の1.5倍、強度は1.5倍、花粉量は半分以下。今年は、まだ約5%、4年後は100%になるよう、苗木をビニールハウスで育てている。

サガンスギのロゴが完成しました

パークテラスのテーブルは、サガンスギを使用。5月1日のオープニングイベントで、テーブルにロゴの焼き入れを行う。

現在、北山キャンプ場を再整備中。レイクサイド北山にスライダーを設置し、その近くにサガンスギフィールドを設ける。サガンスギに親しんでもらいたい。

山を大切に「サガンスギ」を最大限活用しながら佐賀の林業再生を進めます。

● SAGA Ukeire Network～ウクライナひまわりプロジェクト～1年が経ちました

これまでに16組38名の方が佐賀に避難されました

「佐賀は優しいところだ」と言われ、大変嬉しく思う。逆に言えば、ウクライナの戦争がまだ続いていることに心が痛む。

佐賀県では佐賀だからこそできる支援を行っています

世界的に活躍するCSOとの連携で、佐賀に親族、知人がいなくても受け入れている唯一無二の県。各人に寄り添ったきめ細やかな支援のため、来日前から状況をヒアリング、環境整備の方法を調査、フォローしながら対応している。特に、日本語学習や地域との交流会も活発に行っている。

避難された方々の“いま” 現在13組33名の方が在住

8名が就労、8名が就学。避難民の方の希望に沿って、“定住”につながる支援に取り組みたい。様々な支援金も活用しながら、長く続くシステムに作り上げたい。

海外からも高い評価

アメリカのフィッシュファミリー財団、シャピロ財団から1,000万円の寄付金をいただいた。また、官民上げて社会全体でサポートしている佐賀県は、先進的で注目されていると、国連避難民高等弁務官事務所のナッケン駐日首席副代表が来訪。

4月5日避難されている皆様とお会いしました

ほとんどが女性で、戦争状態に心を痛めておられる。佐賀での生活は、「落ち着いてできる」「安全・安心に眠れることが幸せ」との声があった。

できる限り皆さん方の意に沿った受け入れ体制を構築したい。佐賀県は、これからもウクライナ避難民の方々を支援する。

● SAGA BAR がリニューアルオープンします！

佐賀駅西口側のリニューアルオープンに合わせ、SAGA BAR をオープンする。今までの官主導から民によせて、全県の酒蔵が盛り上がる体制にした。4月25日にセレモニー開催、26日にグランドオープン。生まれ変わった新しいSAGA BARにご期待を。

- インバウンド回復に向けて 空も、海も、動きはじめています！

コロナも落ち着き、インバウンドが回復の兆し。九州佐賀国際空港の台湾－佐賀便は、8割超えの高い搭乗率で、木曜日と日曜日の週2便が就航。

唐津港は、西洋系の富裕層がクルーズ船で寄港。やきもの巡りや唐津港太鼓でのお見送りに定評がある。

また、自転車で移動する人たちが、本日佐賀に入る。約300人が県内を自転車で回る。佐賀はサイクリングに適しているらしい。今後、歓迎する企画を考えたい。